

会員の皆様へ

会長 小柳 敦史

これからの2年間、会長をさせていただくことになりました小柳敦史です。新潟県出身、45歳、趣味はテニスです。福島市にある東北農業研究センターでコムギの根系を調べています。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、会長に就任して分かったのですが、根研究会は赤字です。春の研究集会の折に報告しますが、一般会計の支出が過剰で、それを特別会計で補っている状態です。このことは、一見、困ったことのように思えますが、実はひとり一人の会員からすると3000円の会費以上のサービスを会から受けているということで、好ましい状態といえます。そのサービスを支えている特別会計は、先輩方からいただいた多額の浄財、数年前に名古屋で行なわれた国際学会からの寄付金、これまでの役員や事務局員の方々の献身的な労力奉仕などで作られてきました。

このような財政状況をご存じかどうか分かりませんが、副会長は唐原一郎氏（富山大学理学部）と中野有加氏（野菜茶業研究所）が快く引き受けてくださいました。唐原副会長には理学・工学・薬学関係、「根の研究」担当、男子会員対策及び会長に事故のある時の会長代理をお願いいたします。また、中野副会長には農学関係、研究集会担当及び女子会員対策をお願いいたします。事務局長は阿部淳氏（東京大学大学院農学生命科学研究科）にお願いし、会計はじめ運営全般を担っていただきます。会員の皆さんは、研究会についての意見を事務局長宛に積極的にお寄せください。さらに、農水系の研究所で英国のNature誌と同じAランク雑誌と認定されている「根の研究」の編集委員長は、犬飼義明氏（名古屋大学大学院生命農学研究科）にお願いしました。早速、今号から表示のデザインが一新され鮮やかになりました。加えて、総説やミニレビューがさらに魅力的になるよう編集方針の検討が行なわれています。会員の皆さんは、是非、Nature誌のように、一般市民の素朴な疑問に答えるような面白い論文を編集委員長宛にお送りください。たとえば以前、「盆栽の根はどうなっているのか」という問い合わせを受けました。私には答えられませんでした。が、「根の研究」にはこのような素朴な疑問にも答える努力が求められると思います。

そして、事務局長と編集委員長を支えていただくため、海外で活躍している会員を含め、多くの方に評議員と編集委員をお願いしたところです。

根研究会ホームページ「根研究会 10 年史」にあるように、根研究会は農学の森田茂紀氏（東京大学大学院農学生命科学研究科）により、今から 14 年前の 1992 年に組織されました。最初は会長もおらず、規約ありませんでしたし、「根の研究」も 3 号くらいでおしまいになってしまうのではないかと心配されました。その後、同じ分野の山内章氏（名古屋大学農学部）により会は大きく発展し、学術会議の一員になるとともに、日本で初めて行なわれた根の国際学会を運営しました。さらに、理学の谷本英一氏（名古屋市立大学大学院システム自然科学研究科）により、会の活動が農学から理学、工学、薬学の分野まで広がり、会員数も大きく増加しました。このような流れの中で、今期は農業試験場や企業の研究所など産業分野の技術者や一般市民、高校生や子供達にも開かれた会になるよう工夫していきたいと思います。これらの皆さんは、すでにノーベル賞をもらうような研究をされているかもしれませんし、園芸植物の根の手入れの達人かもしれません。根研究会は、これらの方々の活動を支援して行きます。

現在の根研究会は 500 名もの会員を擁する立派な学会ですが、もともと植物や植物の根が好きな仲間の同好会です。いわば大学の運動クラブや公民館の文化サークルのようなものと考えていただければよいと思います。いまのところ、外から会に対する特別な期待はないようですし、会として何かをしなければならぬということもありません。このため、今後、活動の場を広げたり、会費を上げたりするつもりはありません。会員の皆さんは、たとえば天気の良い日に運動クラブに顔を出すように研究集会に参加し、雨の日に文化サークルの同人誌にエッセーを書くように「根の研究」に投稿してください。私たち役員は、いつでもそこで皆さんをお待ちしています。これから 2 年間、どうぞよろしくお願いいたします。